6月
2025年度
西神吉小だより
加古川市立西神吉小学校
学校通信
No.32

～ 作文紹介 ～

今回も作文紹介です。先日の４年生の校外学習の感想です。

「校外学習に行ってきました」

【5/23（金）校外学習後、４年生の感想文より】

- 生活に必要な水は、山から流れてきて、それが川に来て、ちんさち（沈砂池）で木くずをつぶしたり、PAC を入れたり、すなろか（砂濾過）できれいな水だけを出すということができるから、きれいな水が出てくるんだなあと思いました。もし、水がきれいにならなかったら、生活がしにくくなると思います。ゴミもすてたら、そのままゴミしゅうしゅうにはこばれて、もやしたり、さいりようしようとするんだなあと思いました。3R の中のリサイクルでは、鉄やアルミをさい利用して生活にやくだっているんだなと知りました。ぼくたちがいつもすてているゴミは、いろいろな機械でもやしたり、くだいたり、つぶしたりしてさい利用できるアルミや鉄などをのこして使うと知りました。
- ぼくは、ごみにはしゅるいがあって、水はきかいで何回もきれいにしていたことが分かりました。ごみのしゅるいは３つに大きくぶんるいされていて、すごかったです。一番おぼえているのは、そ大ごみです。ごみを海にすてている人もいるので、できるだけ海をよごしたくないので、海をきれいにしたいです。中さいじょうじょうすい場の方では、水をきれいにするところをちょくせつ見せてもらいました。大切なキーワードは３つあって、一つ目はじあ（次亜）です。じあはしょうどくをするやくめがあるので、きれいな水をつくるのにかかせません。二つ目はＰＡＣです。パックと言います。よごれをとってかたまりになるのがとくちょうです。かたまったものをフロックと言います。三つ目はすなろか（砂濾過）です。すなろかは目に見えないよごれをおとすやくめがあってすごいです。このように、水をつくるにはせいけつにたもつくふうがあります。水をせつやくすれば、水のたくさんある日本になると思います。
- 水をつくる事に７～８時間かかる事を初めて知りました。土で水のよごれをとると聞いて、ぎゃくによごれそうだと思いました。水をつくる事にたくさんのタンクやいろいろなぎじゅつで水がきれいにされているんだと思いました。大きな池で作られていて、自分たちが使っている水はすぐにできるものではないと思いました。わたしたちにできる事は、水がポトポトおちていたらすぐにとめる。雨が降っていたら外にバケツをおいて庭の水やりに活用させるだと思います。水のムダ使いはもったいないと思いました。アルミや鉄はまだ使える事にびっくりしました。ゴミのしゅるいによってすて方がちがう事をはじめて聞きました。ゴミはきめられたゴミ箱にすてる理由は、今までゴミをかいしゅうする人がかんたんになるからだと思っていました。けれど、問題は機械のためだと思いました。けいさつや消ぼうのつうしんしれい室みたいに、ゴミのしょりにもつうしんしれい室のように中央せいぎょ室があって、ゴミにも２４時間のどりょくがかかっていると思いました。わたしたちにできる事は、ゴミをへらす、リサイクルする（3R）、電池をすてない、きめられた場所にすてる、だと思います。
- 中西条浄水場は、３つのポンプが山２つ、非常用が１つあって、つながっているポンプの上に、天気のせいで温かくならないように、土がかぶせてありました。きれいにするには、沈砂池→取水ポンプ→ろ過池→次亜塩素酸ナトリウムの順番で浄水していることがわかりました。エコクリーンピアはりまで一番心にのこったのは、すごく大きい４ｍもあるクレーンがゴミをつかんでいるところと、さいしょに見た３Ｄも楽しかったです。わたしは、きまりを守ってゴミをすてて、できるものはリサイクルしようと思いました。